

# 京 都 市 建 築 審 査 会

## 平 成 2 2 年 度 臨 時 会 の 議 事 録

日 時：平成22年11月5日（金）  
午後1時30分から午後5時まで

場 所：京都会館 第1会議室及び会議場

出席者

**【委員】**

巽会長，濱田会長代理，藤田委員，前田委員，湖海委員，関川委員，黒澤委員

**【建築審査会事務局】**

本田建築指導部長，佐藤建築指導課長，和田道路担当課長，初井建築安全推進課長，宮川担当課長補佐，井本調査係長，吉田企画基準係長，足立道路第二係長，速水道路台帳係長，池田係員，小山係員

**【傍聴人（公開口頭審査）】**

28人

1 開会

2 議事概要

(1) 平成22年度第2号審査請求事件（下京区観喜寺町）に関する審議

平成22年度第2号審査請求事件について，事務局から説明及び資料の提示を受け審議を行った。また，午後2時から午後3時15分まで，会議場で公開口頭審査を行い，それを踏まえ，再度審議を行った。なお，審査請求人からの検証の申立については，これを承認しないこととし，追加の主張及び立証の提出については，11月19日を締め切りとし，双方に通知することとした。

(2) 平成22年度第4号審査請求事件（右京区西京極東町）に関する審議

平成22年度第4号審査請求事件について，事務局から説明及び資料の提示を受け審議を行った。

(3) その他

[京都市建議について]

ア 概要

京都市建議について，事務局から説明と資料の提示を受け，審議を行った。

イ 審議の概要

会長 : 前回から、もう少し内容を強化するというので、委員の先生方と議論したいと思います。ポイントだけを申しあげると、この細街路問題は建築行政上の重要な課題ですので、これを建議のテーマとすることは京都市にふさわしいのではないかと思います。これを誰に読んでもらうかという、京都市長をはじめとする幹部です。そして、そこで理解していただき、予算を付けて推進してもらいたいところですが、一方で、市民にもこのような課題を京都市が抱えているということを知っていただく必要性を考えると、もう少し平易な表現で、絵、図、表等を入れて分かりやすくしていきたいと思います。

では、何かご議論いただければと思います。

事務局 : 貴重な御示唆をいただいたと思います。振り返ってみると、京都市は細街路対策については充分ではありませんでした。全国建築審査会長会議などの大きな会議で、細街路問題が重要なテーマにもなり、また、本市においても3項道路指定や、狭あい道路の拡幅事業が全市展開できたこの時期に、もう一度体系的に一から考える時期に来ていると思っていて矢先でしたので、建議を審査会で検討していただけたということは非常にありがたいことだと思っています。

会長 : 建議書は、いつも市長に渡して写真を撮ってという儀式のようなことが多いのですが、私のイメージでは、市長、副市長、関係局長らに集まっていただき、30分ほどパワーポイントで見せて、説明するくらいのことをしたいと思います。市長も、こんなに京都市の細街路問題がひどいことになっているということは知らないと思います。やはり、絵等を見せて「なるほど」と思ってもらえないといけませんので、パワーポイントはぜひともやりたいです。建議の新しいスタイルを作りましょう。

これは、できたら来年度予算に組み込んでいただきたいので、そのためには今年中には形にしなければなりません。

委員 : このような細街路対策は、国からの補助金はあるのですか。

事務局 : 狭あい道路整備事業で拡幅することについては、昨年度から国からの補助金がつくようになりましたし、会長がおっしゃっていた空き地や空き家を活用したバイパス避難通路については、たとえば重点密集市街地等の解消の施策として打てば、補助金が入ることとなっています。

委員 : 建議のタイトルとしては細街路という他はないと思いますが、分かりやすい言換えの言葉というものがあれば良いかと思います。

委員 : 始端部の部分は、補償をした上で、道路として提供をするという発想が必要だと思っています。

会長 : プレゼンテーションをきちんとして、市長に「これは京都市の最重点課題だ」と言わせるだけのものにしなければなりません。

他都市がどういうことをしているのか比較をしてみるのもいいと思います。関東圏では、条例等を作って、細街路対策をやるという姿勢が示されていますので、それを考えると、京都市は遅れていると感じます。

委員 : 細街路の問題は防災の意味があります。やはり予算の問題が絡んできますが、市民感情としては、このようなことが必要だというアピールは絶対に必

要だと思えます。

委員 : 私も予算がないところでは難しいと思えますが、市長等にやる気がないと進まないと思えます。京都では借家がほとんど動かず、空き家のまま何十年も放っておくという状態で、非常に高い空き家率がある現状があります。それとよく似ていると思えますが、このような政策を立てたら実行する意志を強く持たなければ、ほとんど話にならないのではないかと思います。

会長 : とにかくやらなければ危ないところから重点的にやっていただく必要があると思えます。

今日は色々と御議論をいただき、ありがとうございました。

### 3 閉会

京都市建築審査会  
会長 巽 和 夫